

回答調書（実装部門）

地方公共団体名	熊本市		
取組名称	市指定有形文化財小泉八雲熊本旧居におけるデジタルミュージアム構築		
連携自治体、企業、団体等	金剛株式会社（委託先）		
デジタルを活用した取組の概要 （デジタルを活用した取組の全体概要と解決する個別課題の具体的内容）	（種類） ^{（注）}	①	（左記が①の場合の分野） 教育、観光
	<p>【デジタルを活用した取組の全体概要】</p> <p>○ 本市が所有する市指定有形文化財の小泉八雲熊本旧居を、デジタル技術を駆使して、新たな魅力発信の一助としたもの。また、実際に旧居へ足を運ばないと体験できないようなコンテンツを制作することで、来館者増に資するものとした。</p> <p>【実施に至る経緯・動機】</p> <p>○ コロナ禍において、外出が制限され文化に触れる機会が減少する中、デジタル技術を駆使し、生活をより良いものへと変革するDX（デジタルトランスフォーメーション）の一環として、市指定有形文化財である小泉八雲熊本旧居をVR化した。</p> <p>【解決する課題の具体的内容】</p> <p>○ 「コロナ禍における文化に触れる機会の創出」と「実際に来館してもらうための仕掛け」に対応するため、本事業では以下、2つのコンテンツを制作した。</p> <p>① デジタルミュージアムでは、旧居内をWeb上で散策することができ、さらに八雲ゆかりの地である本妙寺や三角西港などを紹介。これにより、外出が制限されていてもデジタル上での散策が可能。</p> <p>② 実際に旧居へ訪れていただくことで、八雲の作品「怪談」から雪女物語をVRで体験。旧居内のみでしか体験できない特別感を出すことで、来館意欲の向上を図った。</p>		

デジタルを活用した取組による成果（成果がわかるデータ・数値）	<p>令和4年1月4日よりデジタルミュージアムを公開。</p> <p>令和4年3月末までのサイト訪問者数は858件（1日最大159件／1月6日）、旧居への来館者数は1月～3月の合計で前年同期比124パーセント（623名→772名）を記録した。</p>
本取組の特徴的な点やデジタルの活用において工夫した点	<p>○熊本市での記念館VR化は本事例が初めてとなる。そのため、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 大学や駅、関連地（施設）をはじめ、市電の吊り広告や旧居最寄りの電停など、あらゆる場所・場面でポスターを掲示し積極的な広報活動を行った。 2. さらにショートムービーを作成し、あらゆる世代への広報・発信を意識した。 3. 事業開始から2か月間をキャンペーン期間とし、アンケートに答えていただいた方に対し、景品を配布した。また、アンケートもweb用と来館者用の2種を準備し、幅広に実施した。 <p>など、多くの人々の興味関心を惹くような取組を実施した。</p>
今後の展望	<p>当課では、小泉八雲熊本旧居以外にも記念館を複数館所管している。本事業の効果を検証したうえで、他の記念館にも拡充していきたい。今回利用したVRという手法にとらわれず、各記念館それぞれの特色を活かし、魅力を向上させるようなコンテンツ制作を目指す。</p>

注： 以下の①または②のいずれかを選択

- ① 域内市町村の取組で、デジタルの活用により、次の個別課題を実際に解決し、住民の暮らしの利便性と豊かさの向上や地域の産業振興につながっているもの。
（・医療 ・教育 ・子育て ・物流 ・交通 ・農林水産業 ・中小企業 ・観光 ・防災）
- ② 域内市町村の取組で、高齢者、障害者などデジタルに不慣れな人々がデジタル機器・サービスの利用方法を学ぶことができる環境づくりを既に進めるなど、あらゆる人がデジタル化の恩恵を享受できる、「誰一人取り残されない」社会の実現に寄与しているもの。

小泉八雲熊本旧居デジタルミュージアム等構築事業

趣旨

本市が所有する市指定有形文化財の小泉八雲熊本旧居を、デジタル技術を駆使して、新たな魅力発信の一助としたもの。また、実際に旧居へ足を運ばないと体験できないようなコンテンツを制作することで、来館者増に資するものとした。

【取組①】

旧居のデジタルミュージアム化

デジタルミュージアムでは、旧居内をWeb上で散策することができ、さらに八雲ゆかりの地である本妙寺や三角西港などを紹介。これにより、外出が制限されていてもデジタル上での散策が可能。



Webサイトトップページ



旧居内を360°カメラで撮影し、デジタル化。Web上の各所にある「カメラ」マークをクリック（タップ）すると拡大表示



八雲ゆかりの地をweb上で紹介。クリック（タップ）すると360°カメラやYoutubeで体験可能。（画像は三角西港）

【取組②】

怪談「雪女」をVRで体験

実際に旧居へ訪れていただくことで、八雲の作品「怪談」から雪女物語をVRで体験。旧居内のみでしか体験できない特別感を出すことで、来館意欲の向上を図る。



旧居内に設置しているVRゴーグルで雪女の物語を朗読とともに体験可能。

今後の事業展開

当課では、小泉八雲熊本旧居以外にも記念館を複数館所管している。本事業の効果を検証したうえで、他の記念館にも拡充していく。今回利用したVRという手法にとらわれず、各記念館それぞれの特色を活かし、魅力を向上させるようなコンテンツ制作を目指す。